

耳で覚える合格赤本5つのステージ

I. 理論(キャリア理論とカウンセリング理論)

	問題	正解	解説
第1問	パーソナリティ・特性因子論は、人間には個人差があり、職業には職業差がある。両者をうまく合致することが可能であり、そのことが良い職業選択や職業適応であるとする。	(答え) ○	【解説】パーソナリティ・特性因子論は、職業選択は自分の適性・能力等の理解及び様々な職業や仕事に関して求められる資質、報酬、就職の機会等の理解をした上で、この2つの関係について合理的な推論を用いてマッチングするというステップで行われるとする。
第2問	パーソナリティ・特性因子理論は、パーソンズによって提唱され、職業指導、進路指導の世界で最も古くから、広く用いられてきたキャリア・ガイダンス理論である。	(答え) ○	【解説】パーソナリティ・特性因子論は、パーソンズによって提唱され、職業指導、進路指導の世界で最も古くから、広く用いられてきたキャリア・ガイダンス理論である。この理論の基本は、人と職業のマッチングである。特性・因子カウンセリングは、ウィリアムソンが特性・因子理論をカウンセリングとして取り入れ、理論化・定式化した。
第3問	ホランド(Holland, J. L.)の理論の主要な概念として、「六角形モデル」、「類型論—交互作用論」が挙げられる。	(答え) ○	【解説】ホランドは、同じ類型に属する人と環境の調和的相互作用が、より安定した職業選択やより高い職業適性をもたらすという「類型論—交互作用論」や個人と環境を同一の6類型にまとめた「六角形モデル」を用いた。
第4問	ホランドは、人のパーソナリティと環境を、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、創造的の6つの類型に分類した。	(答え) ×	【解説】ホランドの類型は、現実的(Realistic)、研究的(Investigative)、芸術的(Artistic)、社会的(Social)、企業的(Enterprising)、慣習的(Conventional)という6つの類型である。
第5問	ホランドは、六角形で隣り合っている性格タイプや職務は、距離が遠いほど心理的類似性が高く、六角形の対角線上にある性格タイプや職業は、最も類似性が高く、一貫性がある。	(答え) ×	【解説】ホランドは、六角形で隣り合っている性格タイプや職務は、距離が近いほど心理的類似性が高い。六角形の対角線上にある性格タイプや職業は、最も異なっており、一貫性がないとしている。
第6問	ホランドは、人間の行動はパーソナリティの表出行動そのものだから、職業選択に当たっても、できるだけ同じ類型になるようにした方が、成功の度合いが高まるとした。	(答え) ○	【解説】ホランドは、人間は個人的特性と環境との相互作用の結果として出来あがるとしたうえで、個人と環境の類型が同一であることによって、調和的相互作用がより安定した職業選択やより高い職業達成をもたらすとしている。
第7問	ホランドは、6つのパーソナリティタイプのうち、企業的(Enterprising)タイプと対極的なタイプは社会的(Social)タイプであるとしている。	(答え) ×	【解説】現実的(Realistic)、研究的(Investigative)、芸術的(Artistic)、社会的(Social)、企業的(Enterprising)、慣習的(Conventional)という6つのパーソナリティタイプにおいて、企業的タイプと六角形の対極にあるのは、研究的タイプである。
第8問	ホランドは、自分の理論に基づき、「VPI職業興味検査」や「職業レディネス・テスト(VRT)」を開発した。	(答え) ×	【解説】ホランドは、自己の理論に基づき、キャリア・ガイダンスのための具体的道具である「VPI職業興味検査」を開発した。しかし、「職業レディネス・テスト(VRT)」は、ホランド理論に基づき、日本の労働政策研究・研修機構(JILPT)が開発したものである。